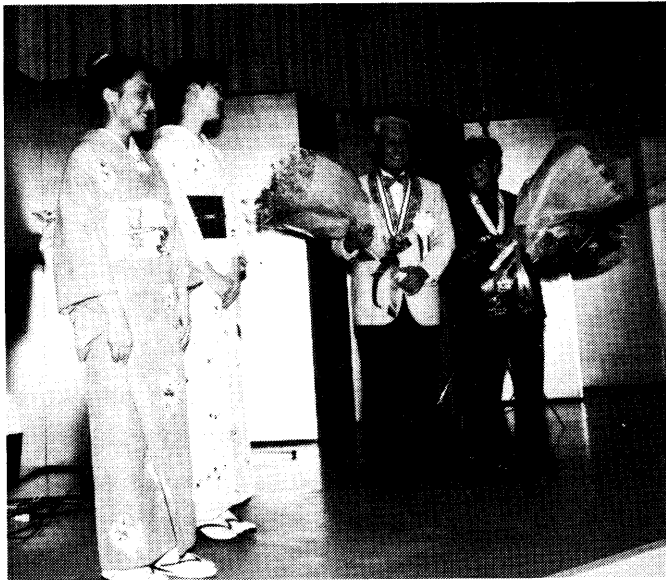




No.63

日本ボーイスカウト神奈川連盟

4・4・25発



- 神奈川県県民功労者表彰
- 横浜文化賞（第40回）
- 横浜市長特別表彰

祝賀の集いに喜びの矢野県連相談役ご夫妻

矢野 節道県連相談役 数々の受賞を祝うつどい

平成3年11月25日(月)横浜市中区山下町ロイヤルホールにて、県連相談役矢野節道氏の神奈川県県民功労者表彰、横浜文化賞（第40回）、横浜市長特別表彰の受賞をお祝いして祝賀会が催された。永年のボーイスカウト活動が、神奈川県や横浜市より認められて今回の受賞となった訳ですが、ボーイスカウト仲間からは各種の受賞をすでにされています。

昭和30年 日本ボーイスカウト神奈川連盟有功賞
 “ 35年 ボーイスカウト日本連盟 かつこう賞
 “ 44年 “ たか賞
 “ 45年 ボーイスカウトアメリカ連盟親善功労賞
 “ 47年 ボーイスカウト日本連盟創立50周年特別表彰

又今回の受賞の前に、昭和35年横浜市教育委員会より、昭和37年横浜市教育功労者として、昭和44年日本ボーイスカウト横浜地区創立20周年記念として横浜市長（大会長）より夫々表彰されて居ります。

大正14年5月ボーイスカウトに入隊以来、67年の永い間スカウト活動の先駆者として、指導者として団は元より、地区の要職、県連の要職、日連の要職を此の紙数がたりない位に奉仕されて来られ、後輩も育てられてその人数も大変なものになる実績を残されて居ります。此のお祝いの会に喜寿の祝も併せて行われましたが、益々お元気にご活躍の程をお祈り申し上げます。

21世紀に向けて

(財)ボーイスカウト神奈川連盟維持財団

理事長 吉田 貞一郎

平成4年度日本ボーイスカウト神奈川連盟の総会に当り、心から御祝いを申し上げます。併せて今日の神奈川連盟を築き上げてこられた諸先輩をはじめ、こん日現在に於て日夜青少年の育成に御多忙の中にもかゝらず努力して居られる神奈川県連盟役員の皆様、更には各団、指導者の皆様に衷心より感謝を申し上げて居ります。

神奈川のボーイスカウト運動は名称こそ違いますが、明治時代までさかのぼり、実に四分の三世紀をこす歴史を持って居り、戦後昭和24年に日本ボーイスカウト神奈川連盟として新たに再発足し、多くの先輩達が社会に役立つ事を自らの幸せとし「平和でさわやかな世界」の創造をめざして幅広い活動を繰り広げて来ました。

然し残念ながら日本の教育制度の欠陥から年々ボーイスカウトの登録数が減少しています。現代の若者は平面的な分野については精通しているが基礎的な学問、研究については大変Poorである。

真の教育とは教えを受けた人間が、自分の持っている才能を最大限に発揮することが出来るように導くことで

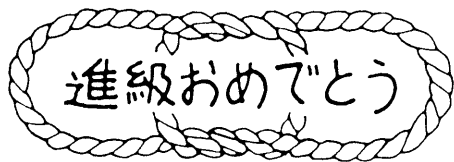
ある。例えば、国際化に対応した教育について云えば、外国語が流暢に話せるようには教育する。然し話した内容が外国人の共感を呼び、感動を呼ぶものでなければ何にもならない。

必要なのは話している本人の個性である。こうした個性ある自己を作り上げるのが真の国際人への道である。そのために、初等教育に於て知識の整理ばかりさせるのではなく、人間的な原体験などたくさんさせる必要がある。教科書にないことをやらせようとするとも何も出来ない、鉛筆1本ナイフで削ることも出来ない。

今若い世代に要求される最も大切なことは国際化と情報化である。これは科学技術と文化の育成の両面に於ける二大潮流である。こうした潮流が家庭教育、小中学校教育のあり方に大きな改革を必要とするゆえんである。

今ほど心身共にバランスがとれた健全な青少年の育成こそ、日本にとって否、世界にとって必要な時期はない。「失敗を恐れず、新しい問題に立ち向かう時には試行錯誤から解決策をつかむ」これはボーイスカウト運動の創始者ベウデンパウエル卿の言葉で、これがボーイスカウト活動だと思います。

21世紀を迎えるこの時代に若いスカウトの皆さん、また関係者及び指導者の皆様、先輩達が築いて来た素晴らしい歴史をしっかりと引継ぎ、人間味あふれる地域づくり、社会づくりをめざして共に力を合せて参りましょう。



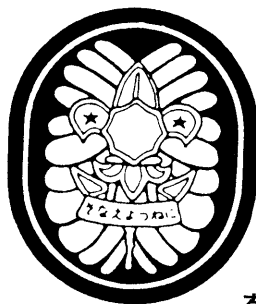
県連・進歩委員会



富士



隼



菊

地区	菊	隼	富士	地区	菊	隼	富士
川崎地区	17 (+ 8)	14 (- 7)	4 (- 3)	湘南地区	5 (- 7)	2 (+ 1)	0 (-)
横浜地区	36 (- 3)	5 (- 2)	0 (- 2)	江南地区	8 (+ 2)	3 (+ 2)	0 (-)
横浜中央	18 (+ 10)	10 (+ 2)	1 (- 5)	県央地区	41 (- 5)	22 (+ 3)	8 (+ 4)
横浜南央	31 (+ 4)	12 (-)	7 (+ 6)	湘北地区	11 (- 6)	2 (- 5)	0 (- 2)
横浜みなと	20 (+ 6)	2 (- 4)	2 (- 1)	小田原地区	0 (-)	0 (-)	0 (-)
横須賀地区	22 (- 8)	0 (- 4)	1 (+ 1)	合計	209 (+ 1)	72 (- 14)	23 (- 2)



平成3年度 富士スカウト進級者

No.	氏名	プロジェクトテーマ	認証番号	認証年月日	地区名	所属団
1	長崎英真	備前焼きについて	1348	10. 25	川崎	川崎第46団
2	小島尚武	中田における民間信仰	1384	12. 25	横浜・南央	横浜第31団
3	加藤修作	救急蘇生法について	1385	12. 25	横浜・南央	横浜第31団
4	仲村考生	ログハウス	1386	12. 25	横浜・南央	横浜第32団
5	上村隆史	元箱根石仏群	1387	12. 25	横浜みなと	横浜第118団
6	小池正澄	暑くなる地球	1448	3. 12	川崎	川崎第21団
7	吉田忠宏	シニア-隊のシンボルマーク	1449	3. 12	川崎	川崎第21団
8	内藤秀明	多摩川の水質調査	1450	3. 12	川崎	川崎第54団
9	青山直樹	社会のスカウト活動への認識調査と対策について	1451	3. 13	横浜・中央	横浜第39団
10	西村圭介	どうしたら美しい地球を守るか	1452	3. 13	横浜・南央	横浜第66団
11	森洋行	キャンプでの可燃物取り扱いにおける事故防止対策	1453	3. 13	横須賀	横須賀第17団
12	長坂祐司	自転車出来るかな	1461	3. 19	県央	相模原第9団
13	鈴木康平	悪の煙はあなたに	1462	3. 19	県央	相模原第9団
14	高原弘孝	学歴社会とその影響	1463	3. 24	県央	相模原第6団
15	海野篤	俳句の旅	1470	3. 24	県央	綾瀬第1団
16	早川貴靖	老化の原点をさぐる	1471	3. 24	県央	綾瀬第1団
17	池見達也	栄光なき自転車小僧	1472	3. 24	県央	相模原第5団
18	織井雄一	人生とカヌー	1473	3. 24	県央	相模原第5団
19	押切健	まむが人生	1474	3. 24	県央	相模原第9団
20	松下雄一郎	泳ぎのファーストステップ	1475	3. 24	横浜みなと	横浜第43団
21	上野琢嗣	老人問題って一体なに	1476	3. 25	横浜・南央	横浜第99団
22	桜井誠二	身近な生物「蟻」その生態と生き方	1477	3. 25	横浜・南央	横浜第99団
23	斉藤雅示	なぜラクビーボールは楕円なの	1478	3. 25	横浜・南央	横浜第115団

学校週5日制

と…スカウト活動

日本ボーイスカウト神奈川連盟

副理事長 武井正光

本年3月24日開催された神奈川県青少年問題協議会のあいさつで、長洲知事は学校週5日制にふれて「県も関連施設の充実をはかって行くので、是非ボランティアの支援と協力をお願いしたい。そして家庭と地域がお互いにより知恵を出し合って新しいライフスタイルを皆でつくりあげたい」と語った。

しかし週5日制については、親の気持ちとして先の見えない不安があるので、6月に開催される団運営研究集会の参考としてこの問題をまとめてみた。

1 今なぜ週5日制が必要なのか

先づ社会的背景として、経済大国になった日本に対して国際的摩擦から長時間労働である日本人の生活のあり方に対する批判がきびしくなったため、勤労者からの労働時間短縮の要求が高まってきたことにある。

国際社会に対応するために週休2日制の気運は、国家公務員、地方公務員にも及ぼしてきたことが学校の先生への大きなインパクトとなってきたのである。

学校の授業が週6日で、先生が週5日では休暇がバラバラになって対応ができないので週5日制の問題がでてきたのである。

ところが、最初は先生の労働問題から発生したのであるが、現在では教育改革の一つとしてとらえられてきた。

従来の学校中心、学力優先、そして学歴尊重の考え方を見直して、家庭や地域など学校以外の場所で、子どもが育つことを考え、教育全体のあり方を問いたず時期がきたのである。

2 今日までの日本の教育

明治以来続いてきた日本の教育とは、すべて学校教育であって、教育は学校を中心としてすべてが動いてきた。行政の予算配分をみるとはっきり理解できることである。

昔は、経済的に貧乏であったので、家庭では文化遺産の伝達ができず、当時の文化センターであった学校に依存せざるを得なかったのも事実である。

現在では、家庭でも「しつけ」を学校に依存しすべてを委託する風潮になった。

また社会教育の分野である交通安全教室や防災訓練から校外生活指導、そして野外活動まで学校に依存したため、近頃の学校は、質、量ともに時代の要請をうけて極端に肥大化してきた感がある。

学校の先生の負担は、時間的にも、労力的にもますます過重になってきたのも当然である。

しかし明治の学制以来100年以上にわたる伝統を破ることは大変なことである。そこで多くの教育関係者が教育改革の一つとしてとらえているのに、われわれボーイスカウト関係者も、両親もこのことが理解されていないのではないかと思う。

週5日制の大きなねらいは、

「教育は学校のみで行われるもの」と云う日本従来からの考え方を根本的に改めて、子どもの教育は、家庭、学校、地域で行われるものであると云う考え方が、今強く求められているのである。

之には、教育課程上の問題として学習指導要項の改訂、部活の対策、私立校が実施するか、そして高校入試の再検討など長期的な展望にたって一つ一つ解決して行かなければならない問題がある。

同時に之は子どもだけでなく、親のそして大人の問題でもある。

3 実施に向けての課題

本年3月23日、文部省は全国教育長会議を開催し「本年9月から学校週5日制」の円滑な実施に向けて、短縮授業の見直しを含む留意点を指示した。

いよいよ、幼、小、中、高校は9月から毎月第2土曜日休校となったのである。

ところが親は、「子どもは学校に行くべきもの」、「学校は、毎日行かなければならないところ」と昔から考えてきた。

特に、母親は、子どもを学校に送りだすこと。子どもが学校でよい成績をあげるよう全力をつくすのが役目である。と期待されてきたきたのであるから、急に「子ど

もは家庭で教育すること」と云われても、とまどうばかりで、休みの土曜日には、家か塾でしっかり勉強させなければならぬのではないか、と心配しているのである。

また、共働きの家庭が多い現在、子どもが放任され非行に走るのではないか。

塾通いばかりが増えるのではないか。

土曜日の授業を、他の曜日に振り替えるため詰め込み教育にならないか。

そのため、学力が低下するのではないか。

など、親は理屈では歓迎するが、現実論になると不安になるのである。

しかし、父親が週休2日制になったとき、最初はゴロ寝が多かったが、毎週になると計画的に自主活動を考えていたのである。

長期的にみると、多忙であった子どもも土曜日が休日になると、当分は休養するであろうが、やがては、自分で興味と関心を考え、有効に時間を使い、自発活動を行うようになるであろう。

親は、子どもを信頼して、時間と行動を任せたらどうかと考える。

4 親、指導者は何を考え、何をしたらよいか。

学校週5日制は「子供をどう育てるか」という基本的な問題を提起している。

学校に、しつけから人間形成までまかせてしまうのがよいのか。

学校以外のところでの育て方をもっと見直してもいいのではないかと云うことを特に、われわれは理解し、特に、親は、「自分の子供は自分で育てる」という意識を強く持っていただきたい。

子どもの人間形成やしつけに最も大きな影響を及ぼし、その最終的な責任を有するのは家庭である。

土曜日は、きょうだいの間で切磋琢磨する、家事の手伝いをする、家族が一しょの時間をもって楽しみながら生活体験を身につけて行くことが、ゆとりある生活の大切な要素である。

子供に自由な時間を与えるために、ノー部活、ノー塾の日を提言したい。

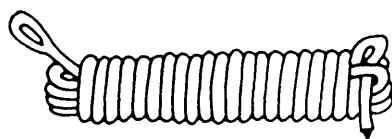
ボーイスカウト関係者も、われわれだけの運動に明け暮れて、閉鎖的になりがちであるから、親や、近隣の方々と協力して、自治会、青少年指導員や体育指導員の人々との交流活動をうながす方法を考え、実行すべきである。

神奈川県をはじめ各市町村の行政は、学校週5日制に関連して、ボーイスカウトなど青少年団体に大きな期待をかけています。

この期待に答えられるよう、今からこの問題にとり組み、あらゆる施策を皆で考えようではありませんか。

子どもにとって、本当の意味でゆとりにつながるよう、私たちがどうかかわって行くか、真剣にとり組むときなのです。

そして、ちまたにスカウトを溢れさせようではありませんか！



県連組織・拡張委員会

第4回団運営研究集会「団を支える人たちの集い」の開催は次の様な企画で、展開されることになり準備が進められています。

記

1. 開催日時 平成4年6月20日(土) 14時受付

15時開会 (1泊)

” 21日(日) 11時開会 (2日)

1. 場 所 相模セミナーハウス(昨年と同じ場所)

神奈川県綾瀬市吉岡東3-8-27

1. 参加費 1名 10,000円

1. 内 容 ●研究テーマ「スカウト減少の歯止め策と隊指導者の確保」

テーマ別研究討議「効果的な募集方法」「上進率のアップ策」「中途退団者の確保」

●講演 演題「学校5日制とボーイスカウト運動の役割」文部部会副委員長

鈴木 恒夫 先生

平成3年度地区別登録受付状況と昨年度との対比表

平成4年3月15日現在

種別 地区別団数	隊数計 (班)	隊 数 種 別					スカウト・リーダー・団委員数内訳									
		B V	C S	B S	S S	R S	B V	C S	B S	S S	R S	S 合計	L 計	団委	合 計	
川 崎 26こ団	77 (32)	14	21 (2)	19 (5)	12 (12)	11 (13)	106	312	335	172	167	1,092	387	243	1,723	
平成4年度 26こ団	81 (28)	14	21 (3)	20 (4)	12 (11)	14 (10)	103 -3	354 +42	342 +7	153 -19	194 +27	1,146 +54	386 -1	246 +3	1,778 +55	
横 浜 27こ団	95 (25)	19	25 (4)	20 (5)	17 (6)	14 (10)	166	421	408	200	160	1,355	447	239	2,041	
平成4年度 27こ団	93 (30)	20	25 (4)	20 (6)	14 (10)	14 (10)	185 +19	439 +18	410 +2	181 -19	175 +15	1,390 +35	461 +14	253 +14	2,104 +63	
横浜・中央 19こ団	53 (28)	14	14 (4)	13 (5)	5 (11)	7 (8)	72	246	263	90	134	805	287	181	1,272	
平成4年度 19こ団	56 (26)	15	18 (5)	11 (5)	3 (14)	9 (7)	62 -10	259 +13	228 -35	94 +4	132 -2	775 -30	271 -16	183 +2	1,229 -43	
横浜・南央 17こ団	70 (10)	13	17 (1)	17	14 (3)	9 (6)	54	223	288	152	144	861	303	152	1,316	
平成4年度 17こ団	70 (11)	14	16 (1)	17	14 (3)	9 (7)	83 +29	170 -53	261 -27	152 ±0	161 +17	827 -34	290 -13	151 -1	1,268 -48	
横浜みなと 22こ団	80 (20)	13	21	20 (2)	14 (8)	12 (10)	109	281	341	176	199	1,106	340	220	1,666	
平成4年度 22こ団	79 (23)	16	19 (2)	20 (2)	12 (9)	12 (10)	133 +24	279 -2	352 +11	154 -22	208 -9	1,126 +20	358 +18	237 +17	1,721 +55	
横 須 賀 14こ団	50 (14)	9	14	13 (1)	9 (5)	5 (8)	58	163	201	107	59	588	209	147	944	
平成4年度 14こ団	47 (13)	8	12 (1)	13 (1)	9 (5)	6 (6)	48 -10	165 +2	180 -21	93 -14	67 +8	553 -35	205 -4	149 +2	907 -37	
湘 南 26こ団	107 (10)	20	24	23 (3)	19 (5)	21 (2)	157	393	404	215	265	1,434	407	280	2,121	
平成4年度 26こ団	100 (15)	20	23 (2)	21 (5)	18 (5)	18 (3)	129 -28	436 +43	384 -20	199 -16	250 -15	1,398 -36	418 +11	282 +2	2,098 -23	
江 南 19こ団	77 (3)	9	19	20	15 (1)	14 (2)	62	346	411	185	140	1,144	309	184	1,637	
平成4年度 19こ団	71 (5)	6	18	20	15 (1)	12 (4)	40 -22	320 -26	396 -15	176 -9	140 ±0	1,072 -72	283 -26	190 +6	1,545 -92	
県 央 25こ団	104 (13)	20	24	24 (1)	19 (6)	17 (6)	172	447	506	269	227	1,621	493	242	2,356	
平成4年度 25こ団	110 (10)	23	23 (1)	25	21 (4)	18 (5)	181 +9	433 -14	473 -33	249 -20	232 +5	1,568 -53	518 +25	245 +3	2,331 -25	
湘 北 13こ団	47 (9)	6	13	12 (1)	9 (3)	7 (5)	55	228	251	123	90	747	177	111	1,035	
平成4年度 13こ団	49 (6)	5	13	12 (1)	10 (2)	9 (3)	48 -7	245 +17	209 -42	123 ±0	109 +19	734 -13	193 +16	119 +8	1,046 +11	
小 田 原 13こ団	36 (10)	3	8	12	9 (3)	4 (7)	18	145	181	89	74	507	146	69	722	
平成4年度 12こ団	27 (18)	3	8 (1)	9 (2)	3 (8)	4 (7)	24 +6	161 +16	166 -15	65 -24	70 -4	486 -21	139 -7	61 -8	686 -36	
3年度合計 221こ団	796 (174)	140	200 (11)	193 (23)	142 (63)	121 (77)	1029	3205	3589	1778	1659	11,260	3504	2068	16,832	
4年度合計 220こ団	784 (185)	144	196 (15)	188 (26)	131 (72)	125 (72)	1036	3261	3401	1639	1738	11,075	3522	2116	16,713	
- 1こ団	-15	+4	-4	-5	-11	+4	+7	-56	-188	-139	+79	-185	+18	+48	-119	

上段は、平成3年度登録受付時の数字、下段は、平成4年度登録受付時の数字を表す。

ひろば

■ あの人、この人インタビュー

カラーチーム・ドラム隊インストラクター

横浜第73団 団委員 大久保 昭宏氏

♪ 音楽との出会いはいつですか

小学校2年生の時、テレビマンガ「エイトマン」の主題歌を聞きながら、ハシでおぜんをドラムにして打ちました。父にスティックを買ってもらい、祖父に米国製の小型ドラムセットを買ってもらい夢中になった。

♪ クラブ活動と勉強の両立は

中学で吹奏楽部にドラムで入部し、将来シャープアンドフラッツのようなバンドのドラマーになりたいと思った。どちらかというクラブ活動に重点をおき生きがいを感じていた。DCI(ドラム・コー・インターナショナル)を知り、メンバーが学校でなく地域を主体として組織されていたため、バンドの所在がアメリカの地図上でどこにあるか暗記するほどになった。バンド紹介のナレーターのスピーチを聞き発音に興味を持ち教科書を読むとき生かせたと思う。

♪ アメリカへ行った動機は

サラリーマンとして勤めのかたわら、1982年横浜インスパイヤーズを創立し、メンバー兼インストラクターとしてやっていく上で、米国のバンドと比較し、日本と米国で練習方法や運営システムのどこが違うのかを知るために2年間米国へ行った。

♪ インストラクターとしてプロになったのは

米国で学んできたことで練習内容等を根本から考え直し実践するには、多くのバンドに伝えた方がいいと思った。

♪ ボーイスカウトを指導して

学校のクラブ活動では先生がいるので言われたことしかやらないことが多く積極性に欠けているようだが、ボーイでは自主的に動き責任感の認識が高いと思う。(BS精神が生きているのでは)

♪ カラーチーム・ドラム隊への夢は

キャンプと同様にカラーチーム・ドラム隊へ参加することがスカウティングであると認識されたい。発表する機会を多くし、定期的な練習を確保し、他県連のスカウトバンドと交流会を持ちたい。最終的には音楽隊(フラッグ・メロディ・ドラム)を組織し、スカウトと楽しみたい。

■ カブ隊と徹也

横浜第79団 保護者 松本 容子

昨年春にビーバー隊に入隊し、キャンプ、上進式などを経て、はや8カ月すぎました。親子共々初めてで分からない事が多く戸惑うことも多々ありましたが、少しずつ慣れてまいりました。息子の徹也は次々と失敗を繰り返しながらも、周りの皆様が暖かく見守って下さるお蔭でとても楽しく活動に参加しております。

今の徹也にとって、カブ隊の活動を通して身につけてほしいのは、自分が社会の一員であるという認識です。カブ隊という集団の中で活動する事によって、親が語って教えるだけでは判らない、協力する事の大切さ、個人の責任など多くのものを体験することができるでしょう。そしてまた、戸外活動で、その無限の楽しさを覚えてほしいと思っております。

■ 我家のボーイスカウト奮戦記 Part II

横浜第79団 保護者 後藤みどり

長男が、自分の意志で、一年間のカブスカウト活動をやめ、もう我家には、ボーイスカウトとの縁も切れ、やっとなりの荷が降りて、日曜日の遅寝を楽しむのも束の間、次男もビーバーでやめると言っていたのが、「やっぱりカブに行く!」と言い出し、夫婦で顔を見合わせてしまいました。長男の様子を、ずっーと見ていて「カブには、絶対に行かない!」と言っていたのが、リスの道を木村隊長の話聞いた時から(?)か、同じビーバー仲間が、カブに上進したいと言う気持ちを感じたのか? 何に気がふれてしまったのか? 長男の時は、親が上進を押しつけ失敗してしまったのかもしれない。でも、その長男が、今では自分の道を勝ち取った余裕からか、「隊集会には、僕が、付添ってあげるヨ。カブ隊のことなら任せとけ!」と、こんな調子である。こんな事が、長男には、プラスになっていたのかもしれない。次男が入って、初めて、理解できたことも多いと思う。私もまた、二度目のデンリーダー補となり、後期には、デンリーダーとして、奉仕させていただくのですが、三男もまた自分の意志で、ビーバーに入り、我家は、また、ボーイスカウト一色(主人は60%~70%だと宣言しているのだが)になってしまった。2年後は、どうなることやら……

★此のページは、横浜地区広報紙第61号8より坂爪広報委員長のご諒解を頂き、指導者意外の本音のお言葉に暖かいものにひかれて、指導者にもご参考にと載せてみましたが、3月の県連広報委員会にも推薦を頂きました。



(財)ボーイスカウト
神奈川連盟維持財団
財団だより

(財)ボーイスカウト神奈川連盟維持財団には、県議会議員の方々が超党派でボーイスカウト振興議員団を組織し、賛助費を毎年財団に納入して下さり、維持財団を通してボーイスカウト神奈川連盟へ助成金或は補助金として贈呈して来て居ります。

今回、昨年4月の統一地方選挙を勝ち抜き見事当選され、新しい県議会議員になられた方々が、嶋村尚美代表幹事をはじめ、鈴木一誠、矢部房雄、高島忠夫各氏の各党県議員代表の方々が話し合いを進めて下さり、別記の議員の皆様方が加盟して下さり早速会費を納入して頂きました。厚く御礼申し上げます。

議員の皆様は、日頃から「地元のボーイスカウトとの交流を深めスカウト運動をより理解して行きたい」と言われまし居りますので、今後各地区行事、あるいは団行事など是非地元の県議会議員の方々と連絡をとっていただき、より交流を深めて下さればと思います。

各議員の方の住所、電話番号は財団事務局(045-365-3422)まで電話を下さればお知らせ致します。

ボーイスカウト振興議員団加盟議員名

(順不同・敬称略)

◎川崎地区(川崎市全区)

田中 和徳 山田吉三郎 原 正巳 田島 信二
小川 栄一 小泉 一郎 井口 隆時

◎横浜地区(鶴見、神奈川、港北、緑4区)

横山 哲夫 岩野 至孝 梅沢 健治 嶋村 尚美
計家 圭宏 三好 吉清 小島 幸康

◎横浜中央地区(西、保土ヶ谷、旭、瀬谷4区)

斉藤 達也 榎並 寛 相馬 元治 佐藤 正之
小沢 茂

◎横浜南央地区(戸塚、栄、泉、港南の一部4区)

南雲 勝利 松田 良明 酒井 文彦 保坂 努
鈴木 一誠

◎横浜みなと地区(中、南、磯子、金沢、港南の一部5区)

村上 健司 新堀 典彦 新井敏二郎 峯尾 舜

国吉 一夫 内田 稔 内田 晃

◎横須賀地区(横須賀、三浦)

竹内 清 牧島 功 高島 忠夫 吉井 貫
吉田 實

◎湘南地区(鎌倉、逗子、葉山、藤沢)

細谷 嘉平 矢部 房雄 番場 定孝 小川松太郎
熊山喜三郎

◎港南地区(茅ヶ崎、平塚、大磯、二宮、寒川)

添田 高明 府川 勝 古沢 時衛 大久保千根

◎県央地区(綾瀬、座間、大和、海老名、相模原、津久井)

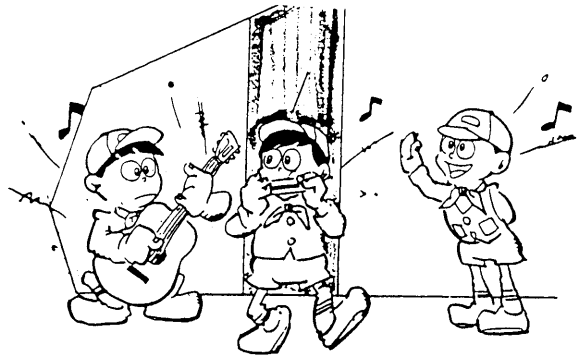
佐竹 正道 小堺 金治 富沢 篤紘 水島 祐吉
小川 勇夫 桐生 忠一 岩本 直通 赤間 一之
石井 充 榎本 与助

◎湘北地区(伊勢原、厚木、秦野、愛川)

飯田 光雄 山口 巖雄 小沢 金男 堀江 則之
久保寺邦夫 小島 鎮夫

◎小田原地区(小田原、南足柄、大井、松田、箱根、開成)

小沢 良明 豊島きよし 秋山 政勝 山室 清
田村 政晴 高橋 實



平成4年4月25日発行 “やまゆり” 63号
発行人 日本ボーイスカウト神奈川連盟
理事長 竹田 英俊
横浜市旭区中尾町5番33号
スカウト会館 045(365)3421
編集人 県連広報委員会 林 祐二
印刷所 (有)金港堂 横浜市神奈川区松本町
2-14-1 045(322)0234